

令和 5 年 6 月 8 日現在

機関番号：11501

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2022

課題番号：19K00386

研究課題名(和文) ヴィクトリア朝の視座で『パンチ』の漫画を読み解く

研究課題名(英文) An Analysis of Punch's Cartoons in Victorian Perspective

研究代表者

中村 隆 (Nakamura, Takashi)

山形大学・人文社会科学部・教授

研究者番号：00207888

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,800,000円

研究成果の概要(和文)：(1)『パンチ』の漫画は先行するホガースの版画の影響下にあった。すなわち、漫画の基盤となる「コマ割り」を有していたホガースは、のちの漫画の祖型である。(2)ホガースの時代の貨幣価値の分析をした。そして、ホガースの時代(18世紀前半)の1ポンドは、日本円で約42,000円と推定した。(3)当時の版画の購買者が熱望していたエロスの需要に応えるものとして「乳房」の要素を高い頻度で組み込んだ。(4)ホガースは西洋の伝統的な絵画である「歴史画」のパロディ(模倣によるからかい)を頻繁に利用した。典型的なトピスは、「聖母子像」と「ピエタ像」である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

研究が十分ではないホガースの版画に注目することで、ヴィクトリア朝を代表する漫画週刊誌である『パンチ』の原型を跡づけることができた。ホガースの時代の貨幣価値について推定したことは、本研究が提示する斬新な知見である。ホガースの版画が売られていた時代(18世紀前半)の1ポンドは、等価物の比較考察などから、現代の日本円でみると約42,000円と推定できる。以上の研究成果の集大成として、山形大学出版会から『ホガースの時代一版画で読むイギリス』(2023年3月15日、257頁)を上梓し、その意義を広く社会に問うことができた。

研究成果の概要(英文)：(1) The Punch's cartoon were much influenced by Hogarth's engravings. In other words, Hogarth was the basis of later comics. (2) After an elaborate investigation, it turned out that 1 pound in Hogarth's time (first half of the 18th century) was about 42,000 yen in modern Japanese yen. (3) Hogarth frequently exploited element of "breasts" in order to meet the erotic demands of his day. (4) He habitually employed a parody of "history painting" to deride dignified theme such as the Madonna and Child and or Pieta.

研究分野：英文学、イギリス文化

キーワード：『パンチ』 漫画(カートゥーン) ホガース エロス パロディ 聖母子像 ピエタ

## 1. 研究開始当初の背景

1841年7月17日に週刊漫画雑誌『パンチ』は生まれた。この国民的雑誌は、種々の社会的矛盾を孕みつつも巨大な機関車のように疾走したヴィクトリア朝のイギリスを文字テキストと視覚テキストによって、隈なく照らし出した。

『パンチ』がひととき意味深かったのは、この週刊誌によって「漫画」という形式が急激に社会に流布したことである。『パンチ』が提供した図像は、大別すると二つあった。一つは小さなイラストやカット類などに見られる小規模な図像であり、もう一つはA4版ほどの誌面全体を使って描かれた一枚の大きな図像である。後者の細密な諷刺図像は「カートゥーン」と呼ばれ、のちの4コマ漫画の先駆的形態となった。

『パンチ』に関する先行研究の主要なものは以下の通りである。

M. H. Spielmann, *The History of Punch*, (1895) (『パンチ』研究の不朽の書)。

R. G. G. Price, *A History of Punch* (1957)

Rodney Engen, *Richard Doyle* (1983)

Simon Houfe, *John Leech and the Victorian Scene* (1984)

Richard Altick, *Punch* (1997)

Gohn Buchanan-Brown, *Early Victorian Illustrated Books* (2005)

谷田博幸『ヴィクトリア朝挿絵画家列伝』(1993)

松村昌家『『パンチ』素描集』(1994)

村岡健次「草創期『パンチ』の政治姿勢」(1996)

小池滋 編『ヴィクトリアン・パンチ 全7巻』(1995-96)

100年を超える歴史を有し、週刊雑誌である『パンチ』から生み出された膨大なテキストと無数なまでの図版(図像資料)を考慮するならば、研究が行き届いていない未踏のテキストや図版が多数あることは明白である。

そこで本研究においては、下記の通り、3つの「課題」を設定し『パンチ』の漫画と Hogarth の版画について考察を進めていく。

(1) 『パンチ』の漫画が表象する「イメージ」、「物語」、そして「寓意」は何か。すなわち「イコノグラフィ的な分析」に基づくと、個々の漫画に関して、美術史的な枠組みの中で、何を読み取ることができるかを議論する。

(2) 一つの漫画を取り巻くヴィクトリア朝の膨大な文字テキストを精読することによって、図像の背景にある政治・経済・社会・文化状況を考察する。また、ある一つの漫画を描くにあたり、画家の心的個性や、宗教的、哲学的態度はいかなるものだったかについて考察を進める。

(3) 『パンチ』の漫画の原型・源流と目されているウィリアム・ Hogarth の膨大な版画群の分析を進める。17世紀の末に生まれた Hogarth が、歴史に名を残す版画を生産したのは、1730年から1760年代のことで、およそ35年に渡って、イギリスの版画界の頂点に君臨した。しかし、美術史家たちの研究の関心は、イタリア・ルネサンス以降のいわゆる Old Master と呼ばれる巨匠たちの壮大な絵画に向けられたために、「小芸術」であるばかりでなく「複製商品」でもある Hogarth の版画はほぼ等閑視され続けてきた。先行研究の少なさが、Hogarth の版画がいかに不当な扱いを受けてきたかを如実に物語っている。有力な先行研究は下記の3点にとどまっている。

Frederic Antal, *Hogarth and his Place in European Art* (1962)

Ronald Paulson, *Hogarth's Graphic Works* (1989)

Ronald Paulson, *Hogarth Vol. I-III* (1991-93)

Hogarth の版画は、漫画の原型となった芸術的特性を有するのみならず、イギリス18世紀前半の民衆文化を知る上で不可欠の風俗史的な資料であり、汲めども尽きせぬ文化史的な源泉である。先行研究で明かされていることの確認をした上で、未踏の領域を探索することによって、新たな Hogarth 研究を打ち立てることができる。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、パノフスキーの美術理論(図像解釈学=イコノロジー)に基づき、個々の漫画や版画を一つの美術作品とみなし、週刊漫画雑誌の『パンチ』と Hogarth の図版を分析することである。あわせて、図像の背景に広がる社会的・政治的・文化史的なコンテキスト(文脈)は何かについて考察を進めることである。具体的には以下の2つの目的を持つ。

### (1) 『パンチ』の図像の解析

文献資料などから得られた知見に基づき、一つの図像の生成に至る過程を解き明かす。『パンチ』の漫画の意味を読み込むためには、それに呼応する同時代の政治・経済・社会・文化の広範な文字テキストは不可欠の資料となる。それらの資料を収集し、精読する。

### (2) Hogarth の版画の解析

文献資料などから得られた知見に基づき、Hogarth の一連の版画(連作版画)の一つ一つの図

像の生成に至る過程を解き明かす。ホガースは同時代のあらゆる現象を作品の内部に取り込んでおり、彼の版画に埋め込められた多重な意味を読み込むためには、それに呼応する同時代の政治・経済・社会・文化の文脈を知らねばならない。

### 3. 研究の方法



『HENRY ASKING FOR MORE』で、クルックシャンクの挿絵のタイトルは『OLIVER ASKING FOR MORE』である。オリヴァーが求めているのは「お粥」であったが、リーチの漫画の Henry ことヘンリー・ブルームは、公職にあつて「もっと報酬を」と求めている。これら二枚の諷刺図像は、リーチがクルックシャンクの継承者をもって任じていたことを浮き彫りにする。

(1) 『パンチ』の漫画やホガースの版画を一つの美術作品とみなし、それらを諷刺画像(戯画)という美術史の伝統の中で解析する本研究は、『パンチ』の漫画とそれに先行するホガースの版画をイギリス美術史の中に意味づけることができる。

たとえば、左図は、初期の『パンチ』の名声を築いた功労者である挿絵画家リーチがディケンズの挿絵画家を務めたクルックシャンクを引用し、当時の政治状況を皮肉ったものである。リーチの漫画のキャプションは 'Henry



(2) 本研究はイコノロジー的な手法に基づく。一個の漫画や版画などの作品にみられるトポス(主題)の組み合わせから象徴、寓意、物語などを読み解く「イコノグラフィ」的な方法論ばかりでなく、作品の周辺にある政治・経済・社会・文化の文脈を読み込むことで、作品の底流を貫く政治的態度、国家観、階級意識、宗教や信条を解釈する「イコノロジー」的な方法論を組み込む。

たとえば、左の版画はホガースの初期の連作版画である『放蕩息子一代記』(1735)の「第七図」であるが、この作品は下記のような文脈の中でから生まれている。

(a) 債務者監獄：イギリスは18世紀を通じて、借金が返せないと、つまり、債務不能者になると、債務者監獄に強制収容さ

れた。この図版では、主人公のトムが無軌道な散財の挙句、この特殊な監獄に収容されている。

(b) 監獄における賄賂の横行：当時の監獄は民間委託であったということもあり、公然と贈賄と収賄がなされていた。主人公のトムの背後にいる看守は「賄賂帳」を手にし、囚人がどれだけの賄賂を出したか、克明に記録している。賄賂の多寡によって、囚人の待遇は大きく変化したのである。酷薄な経済制度の上にある債務者監獄は「地獄の沙汰も金次第」を地で行く空間だった。

(c) ホガースのパロディ：画面の左手で、事実上の夫であるトムが収監されたことに衝撃を受け、気絶して倒れ込む女性(サラ)がいる。これは、キリスト教美術の伝統的テーマである「十字架降下」の巧妙なパロディである。十字架降下とは、磔になったイエスが十字架上で息絶え、そこから地上に戻された場面を画像化したものである。この時、イエスはちょうどサラのように、身体を斜めにした死体として描かれている。したがって、気絶し、体を横たえる女性は、死せるイエスに擬せられている。こうして、高貴なキリスト教美術の主題は、格下げされ、宗教的権威が引きずり倒されている。

### 4. 研究成果

ヴィクトリア朝に一世を風靡した週刊漫画雑誌である『パンチ』に関わる基礎研究を踏まえた上で、イギリスの漫画図像の源流に位置付けられる18世紀のホガースの研究に進んだ。

『パンチ』に関する研究成果をまとめると下記の通りとなる。

(1) 1840年代の『パンチ』の漫画(カートゥーン)は当時未曾有の発達を遂げていた鉄道を反映した諷刺画となっている。諷刺の対象となっているのは、たとえば、鉄道王ハドソンや鉄道関連の株式で儲けを企むプロの投機家や欲に目が眩み、鉄道株のバブルに浮かれた素人(にわか投資家)である。

(2) 1840年代と1850年代の『パンチ』の漫画(カートゥーン)の主題は大別すると以下の3つ



にまとめられる。

1. 1851年に開催された世界初の万国博覧会（左の図版参照）。

2. テムズ川の汚染に代表される公衆衛生問題。下水も上水も整備されていない当時のロンドンでは、処理が追いつかない大量の馬糞と人糞であふれていた。汚染されたテムズ川から取水された上水がそもそも細菌の溜まり場となり、上水を通してコレラ菌がはびこり、悪辣な伝染病が蔓延することになった。

3. 階級問題。資本主義の台頭とともに、貧富の格差が拡大し、富めるものはますます富み、貧しきものは貧困という陥穽から逃れることができなかった。ごく少数の富豪と大多数の貧民を作り上げてしまう資本主義の皮肉な構造が『パンチ』の痛烈な批判の対象となった。

ホガースに関する研究成果をまとめると下記の通りとなる。

(a) ホガースの連作版画は、漫画の基盤となる「コマ割り」を有しており、ホガースは、のちの漫画（カートゥーン）の祖型になっている。

(b) ホガースの時代の「貨幣価値」の分析。この領域は、本研究が提示する斬新な知見である。ホガースの版画が売られていた時代（18世紀前半）の1ポンドは、当時と現在の等価物の比較考察などから、日本円で約42,000円と推定される。たとえば、六枚セットのホガースの版の値段（1ギニー）は今の44,000円となる。

(c) ホガースの版画に頻出する「乳房」あるいは「乳首」の意味の解明。ホガースは性器の描写を超えてはならない一線として自重していたが、当時の版の購買者が熱望していたエロスの需要（ポルノグラフィックな欲望）に応えるものとして「乳房」と「乳首」の要素を高い頻度で組み込んだ。



(d) ホガースは西洋の伝統的な絵画である「歴史画」のパロディ（模倣による「からかい」）を頻りに利用した。換骨奪胎された典型的なトポスは、上の2枚の図版に示される通り、「聖母子像」と「ピエタ像」である。上の右のホガースの版画は、キリスト教美術の聖母子像とピエタ像を引用することによって、「お高くとまっている」伝統的な主題を貶め、愚弄する。

(e) 以上の研究を総括し、研究代表者は2023年の3月15日に山形大学出版会から著書『ホガースの時代 — 版画で読むイギリス』（257頁）を出版した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計2件

1. 著者名 中村隆	4. 発行年 2022年
2. 出版社 私家版	5. 総ページ数 90
3. 書名 『ホガースの時代－版画で読むイギリス』	

1. 著者名 中村隆	4. 発行年 2023年
2. 出版社 山形大学出版会	5. 総ページ数 257
3. 書名 『ホガースの時代－版画で読むイギリス』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------